

火災・救急・救助 119

# 消防瓦版 纏 No.399

富良野広域連合富良野消防署占冠支署 ☎ 0167 (56) 2119



## 住宅用火災警報器の更新を！！

ご家庭の住宅用火災警報器（住警器）はそろそろ交換時期ではありませんか？住警器は、古くなると電子部品の寿命や電池切れなどで、火災を感知しなくなることがあるためとても危険です。10年を目安に交換しましょう！

なお、占冠村は富良野広域連合火災予防条例によって設置箇所が定められています。寝室・階段（2階に寝室がある場合）が該当しているため、ご家庭の設置状況を確認して下さい。また、住警器はすべての住宅において設置が義務となっています。まだ設置できていないご家庭は早期に設置してください！

〔設置時期を調べるには？〕

住警器を設置したときに記入した「設置年月」、または本体に記載されている「製造年」を確認して下さい。  
住宅用火災警報器に関して分からないことや気になることがありましたら、占冠支署指導係までご連絡下さい。

### 救急出場状況 (11月分)

交通事故	1件( 1人)
急病	3件( 3人)
11月計	4件( 4人)
累計	113件(103人)
※( )内は搬送人員	

10年経ったら交換しましょう



## 地域とともに コミュニティ・スクール情報 ~占冠中央小学校~

占冠村教育委員会 ☎ 0167 (56) 2182

### 第2回学校運営協議会を開催しました



12月2日（木）、第2回学校運営協議会を開催しました。本来であれば、10月の開催予定でしたが、新型コロナによる緊急事態宣言、北海道のまん延防止等措置により、延期を余儀なくされました。

この会の目的は、第1回の熟議で示された、学校を取り巻く地域としての求める子ども像に向けて、その実現のための方策を具体化することでした。当日は、学校、保護者、地域の3グループに分かれて熟議を行いました。また、前回よりリモートによる参加になった出口教授(北海道科学大学)にもお越しいただき、助言、指導をうけました。

熟議の中心は、「目指す子ども像に向けた活動の具体化」です。ここで検討されたことは、「すぐにでも実行する」という方針で、検討を進めました。子どもたちへ求める姿として、学校は「小中一貫」「学びの整理」、保護者は「感謝」「思いを伝えること」、地域は「ふるさと」「つながり」といった内容をもとに活動の具現化について議論を進めました。

今後、活動を実行するにあたり、組織や分担等を整理する作業を進めています。その後、保護者の皆さまを始め、地域全体にお知らせします。ぜひ、この動きにご賛同いただき、子どものために、ご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。



## 認知症サポーターを知っていますか

こんにちは  
保健師です

認知症サポーターとは、認知症に関する正しい知識と理解を持ち、偏見を持たず、認知症の人や家族に対してできる範囲で見守りや手助けをする人のことです。特別な職業や資格ではなく、サポーターは、認知症の人への「応援者」です。

### ■認知症サポーターができた背景

最後まで自分らしく住み慣れた地域で暮らしたいとは誰もが望むことですが、その願いを叶える病気のひとつが「認知症」です。

認知症は、85歳以上の4人に1人はその症状があると言われていて、また今後も増加していくことが見込まれ、国ではこれまでもうに介護施設や家族だけでは、認知症の人を支えるのは難しいと判断し、2005年から認知症サポーターの養成を行っていました。認知症の人が記憶障害や認知障害から不安に陥り、その結果、まわりの人との関係が損なわれることもしばしば見られ、家族が疲れ切つて共倒れしてしまうことが少なくありません。しかし、周囲の理解と気遣いがあれば穏やかに暮らしていける

### ■求められる役割

- ① 認知症に対して正しく理解し、偏見をもたない。
- ② 認知症の人や家族を温かい目で見守る。
- ③ 近くの認知症の人や家族に自分ができる簡単なことを実践できる。
- ④ 地域でできることを探し、相互扶助・協力・連携・ネットワークをつくる。
- ⑤ 全ての人が住みやすいまちづくりを担う地域のリーダーとして活躍する。

### ■対応の心得

- 「3つの『ない』」
- ・驚かせない
  - ・急がせない
  - ・自尊心を傷つけない

### ■対応のポイント

- ・まずは見守る
- ・認知症と思われるひとに気づいたら、一定の距離を保ちながらさりげなく様子を見守ります。近づき過ぎたり、ジロジロ見たりするのは禁物です。
- ・余裕をもって対応する
- ・こちらが困惑や焦りを感じていると、相手にも伝わり動揺や不安にさせてしまいます。落ち着いて笑顔で応じましょう。
- ・声をかけるときは1人で言う
- ・複数で取り囲むと恐怖心をあおりやすいので、できるだけ1人で声をかけます。
- ・後ろから声をかけない
- ・一定の距離で相手の視野に入ったところで声をかけます。唐突に声をかけられ、驚いて転倒したケースもあります。



### ■あなたも認知症サポーターになれる

認知症はだれでもなる可能性のある病気です。いつ自分や家族が、あるいは友人や知り合いが認知症になるかわかりませんが、他人ごととしてではなく、自分にも起こりうるということ意識を持つことが大切です。だれもが認知症についての正しい知識をもち、認知症の人や家族を支える手立てを知っていれば自分らしい暮らしをみながら守ることが出来ます。認知症サポーターには90分ほどの講座を受ければ誰でもなることができます。

詳しい内容を知りたい方は相談窓口までご連絡ください。

【相談窓口】  
占冠村地域包括支援センター（子育て支援課）  
☎0167(56)2022

言葉を使って、相手の反応を伺いながら会話をします。